

2006年度自主行動計画（産業廃棄物）フォローアップ結果について

2007-2-20

日本製紙連合会

廃棄物対策委員会

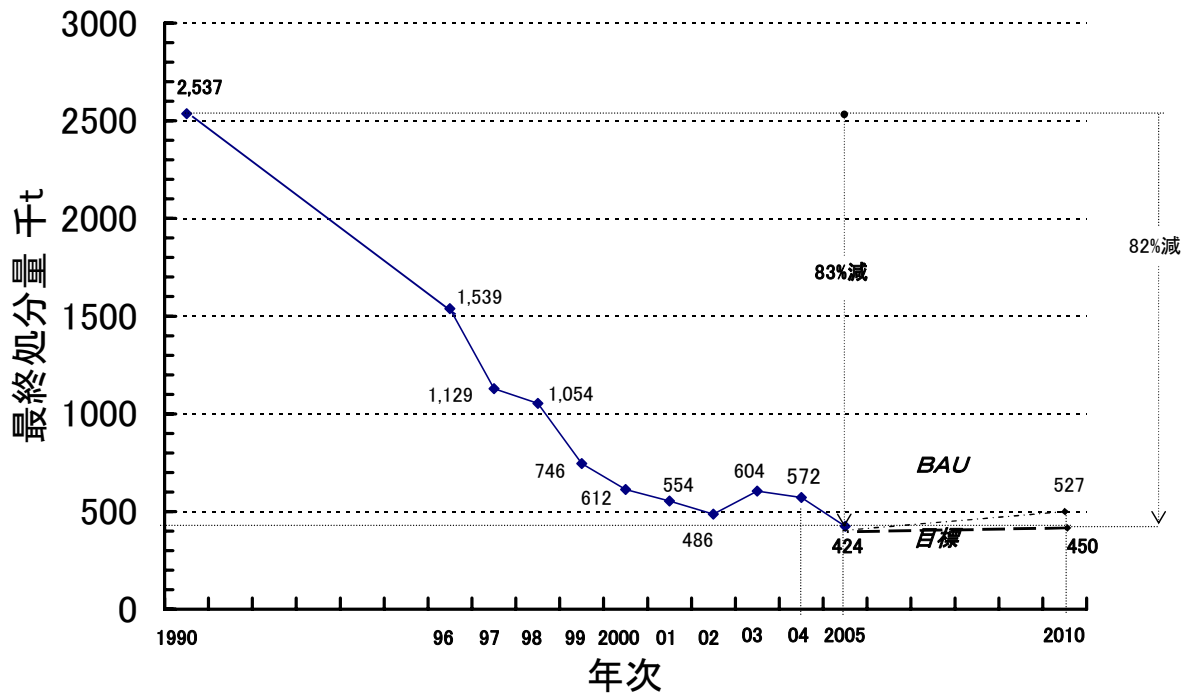
1. 日本製紙連合会は1997年1月に「環境に関する自主行動計画」を策定し、産業廃棄物の最終処分量についてもその目標を定めている。
1999年9月に当初の削減率目標（1990年度比60%削減）を、『2010年度までに産業廃棄物の最終処分量を有姿量で45万トンまで低減することに努める。』と改定し、毎年そのフォローアップを実施している。
2. 今般、2006年度フォローアップを実施した結果、2005年度実績の最終処分量は別紙グラフの通り前年度に比べ約14万8千トン減少し、42万4千トンとなり目標を達成した。
この大幅な削減が得られた主な要因は、前年度まで最終処分を行っていた有機性汚泥の焼却灰の再資源化及びバイオマスボイラーのもえがら・ばいじんの再資源化が進んだためである。
その再資源化先としてはセメント原料向けが多いが、道路、公園の舗装材や土壌改良材、製紙スラッジから填料等への再生など、従来各社で行われてきた新規用途開発の調査・研究の成果が現れてきている。
3. 昨年5月に策定した目標達成のための強化策である「自主行動計画（産業廃棄物）の目標達成に向けて」に掲げた業界内公表については、下記の理由により今回は実施しないこととした。
 - 1) 今回のフォローアップ対象である2005年度実績は、業界内公表制度を決定する以前のものである。
 - 2) 2005年度実績は、目標を達成している。

— 以上 —

2010年度の最終処分量(有姿)目標の進捗状況

日本製紙連合会「環境に関する自主行動計画」は、2010年度の紙パルプ産業の廃棄物の最終処分量を有姿量で45万トンまで低減することに努めることとしている。

廃棄物最終処分量の実績及び目標[有姿量]



注: 1. 2010年度のBAUは、2005年度の実績値をベースに算出

※ BAU(Business as Usual): 本年は、2005年度以降、目標に向けて削減努力をしなかった場合の予想される値